

ふらたなす

第 48 号

天使大学同窓会

編集発行
天使大学同窓会事務局
〒065-0013
札幌市東区北13条東3丁目1番地30
電話/FAX 011-712-1088
天使大学同窓会ホームページアドレス
<http://www.tenshi-dousoukai.org>
年一回発行

平成24年11月1日現在、同窓生会員総数 9,319人

「地の塩 世の光」



天使大学 箏曲部学生による琴の演奏



大学前庭のマリア像



H24年度 懇親会会食風景



H24年度 総会風景

母校の将来を支援する 同窓会であるために



同窓会会長
衛生看護科二十三回生

稲葉 佳江

今期の同窓会理事会活動も二年目が過ぎました。この間における同窓生の皆さまのご協力とご支援に感謝致します。

全国的な大学増設に伴い、新設大学あるいは長い歴史を誇る大学が、学生の恒常的な定員割れや学校法人自体の経営不振などによる大学・学部の閉校、また法人・経営問題の長期化から文科省による法人解散命令など、どの大学にとっても他人事と云い切れない厳しい現状にあります。私たちの母校である天使大学が、地

ております。

その一つは、在学生に対する奨学金制度の改正です。今年度の同窓会総会において、授業料貸与規程が承認され、さっそく募集を開始しましたが、周知時期を逸し十分な成果を得られませんでした。来年度は大学と連携した周知を徹底し、在学生を支援したいと思えます。二つめは、事務管理体制の整備です。同窓会事務局では、今年度から同窓生の辻雅子さん(栄養科二十五回生)をパート雇用し、会計管理や庶務、名簿管理、大学連絡など事務全般を担当して頂くことになりました。十一月からは週四日(一日四時間)、事務局で業務して頂いております。同窓会への連絡の際も、辻さんが対応しますので今後ともよろしくお願い致します。三つめは、支部との連携強化と名簿管理の整備です。今年度はクラス幹事のほか、ここ数年途絶えていた各支部名簿を配付しました。同時に、九月には支部長会議を開催し、同窓生がもれなく各支部に所属できるようにブロック制を導入することとし、支部活動の活発化を図ることで

一致しました。また、会計管理を最も煩雑に行っている維持会費の見直しを継続して行っております。維持会費の納入率は同窓生数の約一割に過ぎない現状ですが、現行規程が年会費で、かつ単年度処理であること、七十歳以上の同窓生と学部卒業生の卒業十年間は納入義務がないことから、これらの管理が事務局の大きな負担となっています。

現在、検討しているこれらの事項につきましては、順次総会に提議させて頂く予定です。

最後に、他大学の現況を鑑みて、天使大学がこれまでの社会的評価を継続するとともに「これから求められる大学」として新たに発展し続けるためには、学園の健全な大学運営と保健医療の将来に対応できる専門職業人教育が不可欠です。同窓会は、天使大学に最も身近な存在であることから同窓生を代表する声となり、大学とこれまで以上に連携し支援を強めていきたいと思っております。皆さまのご協力、ご支援をよろしくお願い致します。

域での存立意義を継続するとともに、看護職及び栄養士業界において高い評価を得続けることを願って止みません。同窓生の一人一人が、さまざまな形で社会・地域に貢献していることが母校の評価・発展につながっております。約一万人の同窓生の皆さまが母校の支えとなっております。同窓会理事会はこれらの同窓生の厳となり、同窓生と大学を支援させて頂く所存です。

さて、今年度における同窓会理事会では、現在、左記の事業を手がけ

「天使大学の発展への変化」



天使大学学長

丸山知子

私が母校に戻って四年、学長職として三年が過ぎようとしています。

その役割も終盤になりました。母校に戻り大きなカルチャーショックを感じ、そのショックを背負い続けながら現在に至っています。しかし、近年の大学間競争の中で、天使大学として他大学との差別化を図り、社会で高い評価を得られる人材を送り出すという使命をいつも考えております。そのために、創始者であるシスター達が残して下さった精神の継承を、学生達にどのような形つないでいくかが、非常に重要な課題と

思っています。私が教育を受け、これまで教育に関わってきた時代とは

大きく変化しており、社会が求める学生像も、学生自身も変わってきているという現実を認識することが第一歩と考えています。従って、大学運営において、その時代の移り変わりにどれだけ敏感であるか、そして、どのように学習環境に反映させることができるかは重要な課題になります。現代の厳しい経済状況の中で、受験生は国立大学を志望し、私学は良い学生を集めるために、今まで以上に魅力ある教育プログラムと学

習環境を整えることが必要です。現

在の天使大学の評価の背景には、シスター達が築いた五十年の教育と卒業生の社会的貢献があることを実感しています。しかし、これからは学

部卒業生が、この変化の時代に適応しながら生きる力を、学生時代にしっかり育つよう支えることが教職員に課せられた使命だろうと考えています。「今」がどんなにすばらしいと

評価されていても、社会の変化や地域の人々のニーズに沿って変化しなければ発展は難しいと考えます。すなわち、現状の評価に満足せず、「変化↓変革」によって、更なる発展を

目指さなければその組織の成長はないといえます。ニーバーの祈り（アメリカの神学者）に、「神よ、変えることのできるものについて、それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。変えることのできないものについては、それを受け入れるだけの冷静さを与えたまえ。そして、変えることのできるものと、変えることのできないものとを、識別する知

恵を与えたまえ。」という言葉は、

私の座右の銘にしています。大学は、未来の社会を担う学生が、将来、人間として、職業人として成長し、その責務を果たせるよう、彼らを支える責任があると考えています。最後になりますが、今年六月に大学発信の第一号の健康レシピ本（千円）を

発刊しました。ぜひ、お手元において頂きたいと思います。また、現在二刊目の準備中ですし、大震災被災地の方々のためのレシピ本も製作中です。ぜひ、発刊の折にはご協力頂ければうれしく思います。

同窓会には日頃から精神的、経済的に大学を支えて頂き心から感謝しております。同窓会の発展は大学の発展につながりますので、同窓生一人ひとりが大学との太いパイプ役になって頂ければ幸いです。今まで以上にご協力、ご支援をよろしくお願い致します。



各委員会から

研修部理事
栄養科十八回生

西尾 久美子

同窓会の理事として二年目が過ぎようとしています。一万人を超えようとする大所帯になって全国に会員がいっしょにすることを考えると、支部会の運営・活動を通して同窓生が交流できる支援を同窓会本部が担うことの重要性を感じた一年でした。

また厳しい社会情勢のなかでの天使大学の有り様など、伝統を守りながら社会のニーズに対応して発展していくことの大変さにも気づきました。

理事会では会長を中心に各理事が活発な議論を重ねながらすすめています。同窓会の活動を通じて改めて天使らしさや、同窓生の温かさを感じられることとなっています。研修部理事としては、研修委員の看護学科三十三回生の稲毛由美子さん、佐々木江理さんと協力し、講演会の企画など準備をすすめております。今年の総会では、栄養学科の荒川義人先生の講演を予定していますので、多くの方々の参加をお待ちいたしております。活発な総会や学生たちの活動を垣間見る講演、和やかな懇親会で会員の親睦を深めながら、今後の母校の発展を願いたいと思います。

会計理事
厚生科二十回生
専攻科六回生

川村 紀美子

平成二十三年度より宮本様と会計理事をお引き受けし二期目になりました。宮本様は会計事務に詳しい方です。御指導を頂きながら御手伝いさせて頂いております。

任期もあと残すところ一年となりました。皆様の御指導を頂きながら精一杯努力したいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

事業部理事
栄養科二十二回生

渋谷 みえ子

在学生への支援である「天使大学同窓会奨学金制度」の援助の範囲を広げ、院生の他に大学在学学部生も対象とした「天使大学同窓会授業料貸与制度」新設の検討をいたしました。平成二十三年八月から七回の奨学金検討委員会を開催、奨学生の認定や選考基準をはじめ「奨学金貸与規程改正」の様々な条項の確認・検討・審議を繰り返しました。平成二十四年度同窓会総会に於いて審議の結果、承認いただきましたので報告いたします。今年度は、多くの学生に周知する期間が短く、残念なことに応募はありませんでした。平成二十五年度は、早期募集告知を実施する

と同時に大学事務局との連携を徹底し、応募の学生をお待ちいたします。

広報理事
厚生科十三回生

仙庭 ミナ

よりよい広報誌の発行を目指して

第二期の二年目を迎え、新しく加わった新委員さん二名と前年度急に交代することになった引継ぎ委員さんと四名での広報誌発行の仕事が始まりました。今年度から委員さんの人数が一名増になり広報委員会としては充実した人員配置になりました。

しかし力ない担当理事で何かと委員さんの支えを頂いてのぷらたなす編集です。若い委員さんの発想と行動力はとても力強く、昨年にも増してより中身の濃いぷらたなすになったのではと自画自賛しているところです。又、今回は、自発的にシスターの思い出などの原稿をお寄せいただいた同窓生もおられ、広報誌を通しての会員の交流が出来るようになってきたのかなと心強く思っています。

限られた紙面で思うような原稿をお寄せいただけないことに心苦しく思いますが、少しでも読みやすくそして仲間の活躍を広くお知らせできるように広報誌になるように残りの任期を勤めていきたいと思っておりますのでどうかよろしくご協力ご鞭撻ください。

同窓会支部長名

※同窓生の皆さんで支部所在地にお住まいの方、連絡を待っています。

支部名	卒・回	支部長名	〒	住 所	☎
関 東	衛看24・専攻9	椎 名 喜美江			
関 西	厚 生 15	上 林 文 子			
函 館	栄 養 10	鈴 木 みのり			
十 勝	衛 看 28	宮 坂 陽 子			
稚 内	栄 養 10	倉 洋 子			
釧 路	栄 養 21	前 田 涼 子			
旭 川 現在休止中	看29・専15	(連絡窓口) 森 高 郁 代			

プラタナス発行後に変更があった支部におかれましては、早急にご連絡ください。支部長名簿を変更させていただきます。(係)

支部長さんからのお願い!!

各地にある同窓会の支部にどうかご参加ください。支部の所在地につきましては、支部長一覧を参照してください。

☆事務局からのお知らせ☆

* 事務職員について *

昨年10月から週4日間、同窓会室に事務職員が勤務しています。栄養科25期の辻雅子さん。テキパキと同窓の事務作業をこなしてくださっています。これまでの週1回体制より、会員の皆様からの問い合わせにスムーズに対応できるようになったのではないかと思います。

勤務時間は下記のとおりです。(状況によっては時間に変更になる場合もあります。) これまで以上に、ご連絡や情報をお寄せください。

月曜日 13:00~17:00

火~木曜日 10:00~14:30 (12:00~12:30休憩)

* 同窓会室備品入替え *

同窓会室のパソコン機やテーブル、キャビネット等が新しくなりました。書類の整理・保管場所が増え、作業能率もグンとアップしました。白を基調としているためか同窓会室がとても明るくなりました。機会がありましたら、同窓会室を見にきてください。

* 個人番号記入のお願い *

封筒の宛名が書かれたシールの左下に、数字が記載されているのをお気づきでしょうか? 会員情報整理のため、一人一人に整理番号を付けています。アトラダムな数字で、意味はありません。維持会費の振込み時に、名前の前にその番号を記入していただくと、作業上とても助かります。よろしく願いいたします。

ご 挨拶

栄養科二十五回生 辻 雅子

卒業後就職した畑違いの民間会社を早期退職し、縁があって、当会の事務のお手伝いをしております。学んだ事を生かす仕事をしていないことに、ずっと後ろめたい気持ちがありました。この機会に、民間会社で培ってきた種々の知識と経験を生かして、別の形で母校に恩返しのできるのであれば、嬉しいかぎりです。少しでも皆様のお役に立てるよう努めてまいりますので、よろしく願いいたします。

平成24年度 役員・委員名簿

役 員				委 員		
役職	(各理事担当委員会)	卒 期	氏 名	委員会名	卒 期	氏 名
会長		看23回生	稲 葉 佳 江	研 修 委 員	看33回生	佐々木 江 理
副会長		栄22回生	野 原 純 子		看33回生	稲 毛 由美子
	(研修理事兼務)	栄18回生	西 尾 久美子	庶 務 委 員	栄32回生	池 田 寿 子
理	庶 務	栄28回生	本 間 裕 子		栄33回生	細 野 英 子
	会 計	栄17回生	宮 本 八重子	会 計 委 員	看31・専16回生	津 田 万寿美
		厚20・専6回生	川 村 紀美子		栄33回生	小 林 裕 子
	広 報	厚13回生	仙 庭 ミ ナ	広報部委員	看33回生	神 田 民 恵
会 員 組 織	看26・専11回生	本 宿 美砂子	看34回生		辻 野 美智留	
福 祉	厚19・専4回生	青 山 妙 子	栄33回生		伊 織 美保子	
	事 業	栄22回生	渋 谷 みえ子	会 員 組 織 委 員	栄32回生	藤 本 夕 美
看32回生		荃 津 智 子	栄32回生		吉 村 光 代	
監 事		厚17・専3回生	城 直	福 祉 部 委 員	栄32回生	出 村 春 美
		栄15回生	遠 藤 徳 子		栄33回生	木 村 江 里 子
				事 業 部 委 員	看34回生	本 間 真 世

クラス幹事会から



栄養科二十二回生

天徳大学同窓会 副会長

庶務担当理事 野原純子

平成二十四年十一月十日(土)、クラス幹事会を開催しました。主な目的は、次期役員改選に伴う選挙管理委員および役員候補者推薦委員の選出でありました。会則・細則により代議員を除くクラス幹事から選出ということ、出席者の協力のもと各委員が数名ずつ推薦されました。今後は、推薦された方々の承諾を頂き、平成二十五年度総会で承認を得るという手順を進めていきます。

その他、①九月に行われた支部長会議の報告②同窓会維持費・クラス通信費の現状について説明し、出席者からの意見をお聞きしました。



①②について今後の運営を遂行するための参考にしていきたいと考えています。最後に、十月から事務員として勤務している辻さんの紹介を行いました。(今年度の総会で承認済) お忙しい中の出席、またご協力を頂き感謝しております。

支部長交流会から



栄養科二十二回生

天徳大学同窓会 副会長

庶務担当理事 野原純子

平成二十四年九月八日(土)支部長会議を開催しました。出席者は、関東・旭川・小樽・釧路・十勝支部から八名、同窓会理事七名と事務員一名の計十六名でした。昨年のプラタナスの会長挨拶の中で、支部との連携(活動支援)を強く述べられておりました。また総会においても支部活動助成金の承認を得たことで、同窓会としては早速体制づくりに着手いたしました。今回は、各支部長の考えや意見(会員の意向も含めた)を出してもらい、また同窓会側では活動状況や支部活動に対する意向を伝えるなどの意見交換を目的に会議を開催しました。

支部活動助成金の使用、

ブロック制、名簿管理、維持会費など様々な内容について話し合いをしました。結論を出す会議ではありませんでしたが、相互理解が深まり有意義な会議であったと感じています。まだまだ不十分であるとは思いますが、会議を重ねて進んでいければと願っています。



支部からの便り

各支部の支部長さんから、活動の報告をいただきました。

関東支部

衛看科二十四回生・専攻科九回生

支部長 椎名 喜美江

同窓生の皆様こんにちはは関東支部です。私たちの主な活動は会報「すずかけの樹」の年一回の発行と総会・懇親会の開催です。昨年六月二十四日(日)の総会は四十六名の出席でした。丸山学長先生と稲葉同窓会会長に遠路はるばるお出で頂き、最近の母校の様子や同窓会活動についてお話ししていただきました。母校のために自分たちに何ができるか改めて考えさせられました。昔の写真のスライドショーもあり懐かしさいっぱいひと時でした。次回は平成二十五年六月二十九日(土)十一時〜明治記念館で開催いたします。美しいお庭を眺め、美味しいお料理に舌鼓をうつ、ちょっとおしゃれな時間を楽しみたいと役員一同張り切って準備を進めております。関東支部以外の方もぜひどうぞ。ご一報いただければご案内をお送りいたします。

会報の発送は六百部弱で、維持費の納入率は三四%程です。会員の皆

様の寄付もいただきながらやりくりしています。若い方々の新規加入、総会参加が少なく残念です。卒業後、東北・関東方面に住所を移した同窓生の皆様ご連絡をください。特に母校で受けた教えの真価を実感している方、受けた教えの意味を語り合いませんか。

十勝支部

衛生看護科二十八回生

支部長 宮坂 陽子

十勝支部では、年に一度の総会及び研修会の実施と支部報の配布、年三回の「男の料理教室」の実施を主な活動としています。

研修の内容は、会食・実技研修・大学の地区懇と合わせた大学との交流会・講演会のサイクルで、総会の後に二〜三時間で行なうという形が定着しています。

今年の実技研修ということで、講師には札幌から衛生看護科三十二回卒業生で染色家として活躍されている千葉真由美さんをお招きして、「山の幸染め」にチャレンジしました。風呂敷やスカーフなどが好きな木の葉の形や色に仕上がりが、皆大満足。男の料理教室では三角巾として使う方も多く、実用的でもあり大変好評でした。

又、参加された方の中には大学で講師の千葉さんと親しかった方もいらっしゃる事が途中で分かって盛り上がるなど、嬉しいおまけも付きました。「男の料理教室」も会員の皆様のご支援のおかげで、十一月には十五回と順調に回を重ねております。いよいよ次年度には六年目となり、最初は初心者のがに始まったこの教室も、参加者の腕が上がって毎回の献立も随分豪華になってきました。

中にはこの会で仲良くなられ、教室の後にお茶をして帰る皆さんもいらっしゃると思います。お手伝いくださる会員がいて、参加してくださる方がいて、初めて成り立つ活動です。参加された皆さんが、来て良かったと思える場になるように役員一同力を合わせて頑張っている所です。今、役員として若い方々が入ってくださり、本部の会議等にも積極的に参加して下さっています。とても頼もしく、嬉しい事です。

旭川支部

助産十一回生・厚生科十三回生

支部長 久原 恵美子



旭川支部としての最後の活動報告をいたします。昭和六十三年四月支部が誕生して以来

二十四年間、総会、研修、懇親と活動を続けて来ましたが平成二十四年六月九日の支部総会をもって休部といたしました。

- ・ 大学へ転換した頃から本部との繋がりが次第に途絶えたこと
- ・ 新卒者の動向情報が入らず新入会員がなくなった。加えて会員の高齢化や逝去による会員数の減少が続く
- ・ 大きく変化していく社会情勢の中で支部活動に求められているものは何か、本部の意向は何か、それがわからない現状では活動は続けられない、等々。数年来これらの問題を抱えながらも先輩の方々が苦勞して立ち上げ愛着をもって育てて来られた支部の灯をなんとか守り続けようと努力して来ました。

しかし今年役員会で何度も話し合いを重ね総会には閉部を提案しました。

総会では・支部がなくなるのは淋しい・なんとか継続できないか・若い力がなければ続いてはいけない・若い人は仕事に家庭にと忙しい・現状では閉部も仕方がない・できることはお手伝いさせていただきます。当日率直な思いを語り合いました。当日出席下さった稲葉会長さんの「支部活動費の助成、支部への名簿の送付等支部活動を支援する、支部長会議も開催する、閉部にしないで休部に

して次へつなげてほしい」との熱い思いにも押されて、本部との連絡窓口において休部にすることに決めました。(現役員九人も連絡係として待機する) 九月の支部長会議には支部の助成金、支部会員名簿はUSBで送付、各支部担当地域のブロック案などが提案され、支部支援の第一歩が動き出したようです。旭川支部は三十一市町村、三百数十名の会員とか。この中から若い人達が集まり、支部活動を始めたい、是非展開したいという声が上がった時は、私達連絡員一同いつでも力を惜しまず協力して参ります。

小樽支部

厚生科二十回生・専攻科六回生

支部長 川村 紀美子

小樽支部は平成二十年廃止と決定しましたが、二〇一二年同窓会本部の意向を受け有志が集まり話し合いをしました。

結論としてはとり合えず現在は休止ということとし、年一回交流会を有志で行い今後の本部の動きを注視して行く事と致しました。



各地で活躍する同窓生

「言葉がくれる力」

食物栄養科五十回生
平成十二年卒

中村 真由美

私は平成二十二年十月、福住駅近く「プライベートエステサロン トウインクル」というエステサロンをオープンいたしました。

エステティシャンは私一人、という小さなエステサロンです。

お客様が、ほっと一息つきたい時や、リフレッシュしたいと思った時に、「一番先に思い出していただけ場所」でありたいと思っています。

エステサロンというと、「高額なのでは?」「勧誘がしつこいのでは?」「など、残念なことにまだまだマイナスイメージが強い業種だと思います。

そのようなイメージを覆したく、私のお店では「一回毎のお支払制」と「勧誘一切なし」という新しいスタイルを採用しました。

せっかくリラクゼーションにいらっしやるのに、ストレスや不安を感じてしまっただけでは、意味がないと考えているためです。

私は、一人でサロンを営業している



しい時もあります。

そんな時に力をくれるのが、「言葉の力」だと、常に感じています。

ある日読んだ本に「足は大地に、目は星に」という言葉を見つけました。その時、この言葉がなぜかパッと心に響いてきたのです。

この言葉は、「目標や夢を持ちつつ、足元のこともちんとやろう!」ということを表しているそうです。

私は「目の前の自分にできることを、コツコツと続けることが、目標や夢の達成につながる」と解釈して、この言葉を日々思い浮かべています。

この言葉に出会って以来、本や会話の中でパッと心に響いた言葉を、紙に書き出しています。

他に好きな言葉は、「何でも手に入れたい人は、何も手に入れられない人」や、「人間の天敵は外ではなく、心の中にある」などです。

このような言葉を集めて、ことあるごとに読み直すと、不思議とモチベーションが上がってきます。言葉

ため、日々すべてのことを自分で決断し、実行していく必要があります。迷ったり、なかなかモチベーションを保つことが難

しい時もあります。

天使での学び 今も生活の基礎に

食物栄養科四十四回生
平成六年卒

菅原 美樹
(旧姓 柴田)

今回原稿を書かせていただく機会を頂き、振りかえってみると、卒業から約二十年経ち、改めて時間の流れの速さに驚いています。

その間、就職、結婚、二世帯住宅への転居など幾度かの転機がありましたが、仕事面では、栄養士を経て、現在は栄養士と関係のない仕事をしています。

当時の食物栄養科を卒業した後、学校の就職紹介で、食品メーカーに就職し、栄養士として、自社製品の塩分、糖分、アミノ酸量等を分析機器で測定する食品分析の仕事をしていました。職場は先輩方に恵まれ、充実した職場生活を送っていました。が、結婚を機に、生活スタイルが変わっても、そのままフルタイムの仕事が続けていけるか不安を感じ、仕

のお守りのようなもの、といえるかもしれません。

これからも、センサーを働かせて、素敵な言葉を集めていきたいと思えます。皆様も、ぜひ力をくれるお気に入り言葉を見つけてみて下さい。

事時間を選べるような仕事がないか、考えるようになりました。

私が選んだのは英語でした。子供の頃から高校に入るまで習っていたものの話すことはできず、いつか話せるようになりたいと思っていました。一緒に習っていた親友は海外留学し、当時すでに英語を使う仕事に就いていたことも大きかったと思います。

その後、会社帰りに毎日英会話学校に通う生活を数年続け、短期留学の後、行政関係の国際交流の仕事に就きました。二年に一度開催される会議の準備が主な仕事で、資料の翻訳等をしていました。会議直前には、参加者とのメールのやりとりが一気に増え、一日中メールの返信だけで終わる日々が数週間続きました。海外で会議を開催した際は、会場のセッティングや資料作成に追われ、ホテルと会場の往復しかしていなかったため、今思い返しても、その道のりの景色しか思い浮かばないのが少し心残りです。

現在は、毎年七月に札幌で開催される音楽祭で、学生の指導にあたる講師陣の通訳・アテンドの仕事をしています。コンサートのない日は、毎朝講師をバスで練習会場へお連れし、生徒指導の時間や部屋の確保等の調整をします。コンサート当日は、リハーサルの調整や楽屋の用意をします。演奏が終わる度、楽屋に次の出演者の迎えに行く際は、頭で自分

が演奏するわけではないとわかってはいるのですが、演奏者が舞台上の前は少し緊張してしまいます。

会議や音楽祭のイベント期間中は、朝から夜まで、お休みの日もほとんどないので、体力的にはつらい時もあるのですが、現場での同僚との一体感や、あまり見る機会のない舞台裏を知ることができるとはとても有意義で、今後も続けていくことができましたらと思っています。

卒業後の進路は大きく変わりましたが、栄養のバランスを考へることが自然に身についているため、忙しくて食事が取れないとき、不摂生が続いた時にも修正することができ、これまで大事な時に体調を崩すことなく乗り越えてくることができました。在学中にはわからなかったことですが、今になり、これから先どんな職業に就いても(ついていなくても)、大学で学んだことは自分の人生の基盤となっていくことを実感しています。

『わくわく♪お届け しています』

宅配便の仕分け

栄養科三十三回生
昭和五十八年卒

小 蔵 亮 子

天使を卒業後、一年間の臨時家庭

科教員を経て、約六年間、地方の学校給食センターで栄養士をしていました。

小学校三校分で約百食という小規模の給食センターだったので、給食だよりや給食モニターなど、自分のやりたい事のほとんどをやれて満足でした。

結婚後は、子育てをしながら、いくつかの仕事をしました。四年前から「夜間の宅配便の仕分け」の仕事をしていました。

夜間(二三〇〇〜五〇〇)にしたのは、上の子と年のはなれた三人目の息子が、まだ幼稚園に通っていたからです。夏休みや冬休みに昼間家に居ることができると、参観日などの行事にも仕事を気にせず出席できるからです。

仕分けの仕事内容は、全国各地から札幌管内に届く荷物を、それぞれ各地区の配送センターへと仕分けをします。私はクール便の担当なので、扱う荷物のほとんどが食品です。

店舗への商品もあれば、個人宅への品物もあります。とにかく全国各地から四季折々にいろいろな品物が送られてきます。

今日発送した品物が、道内であれば明日には届く、ずいぶん便利になった宅配便の裏には夜通し動いている物流システムがあるからです。私も働いて初めて知りました。

我家にも宅配便がよく届きます。

地方に住んでいる私の両親と夫の両親から三人の孫達への贈り物です。それぞれの誕生日や夏休み、年末などことあるごとにいろいろと送ってくれます。

もちろん孫達への愛情がたっぷりだった「たまたま箱」です。

荷物が届くたびに子供達は、顔を寄せ合って何がでてくるか？わくわくしながら荷物をあけています。

こんな風に、宅配便を受けとるわくわく感とうれしさを実感しているからこそ、仕分けの仕事がすごく楽しいです。

もちろん、限られた時間内で作業しなければならぬことや、重い荷物を持ちつたり、荷物を損傷しないように気づかったりと大変なこともあります。

でも、荷物を届けるのではなく、お客様の気持ちを届けていると思っ、日々がんばっています。

両親の介護に 思うこと

衛生看護科二十八回生
昭和五十二年卒

児 玉 弘 美

共働きで子供がいない私たち夫婦は、年老いた両親が元気でいてくれることを有り難く思いながら休日を含め、気兼ねなく楽しんでいました。

そんなある日、行きつけの美容室から「お母さんが約束の時間に来ない」と連絡が入ったのですが、私が気づいてあげることがありませんでした。主治医から紹介された病院に入院し、脳神経内科まで受診しても問題は解消されないうまま時間が過ぎ、忘れ物外来にたどり着いてアルツハイマー型認知症と診断を受けたのは数カ月後のことでした。

仕事を辞めて母を呼び寄せ、介護が始まってもう六年が経ちます。昨年の春には、体調が悪くても病院受診を拒んでいた父も連れてきました。下血がひどくなり、どんどんやせいく父を見ながら、医療に頼らない終末の選択があっても良いのかなと、父の希望を尊重しようと思心しながらも、今後予測される事態にどう対応すべきかを考えると、不安は膨らんで行きました。

でも、結局父は家で意識を失い、私が希望した天使病院に運ばれ、手術を受けストマになって無事に退院することができたのです。

両親の介護では、少なからず心身のストレスがあります。眩暈や耳鳴りで耳鼻科にかかり、神経内科の先生にも相談したこともありましたが、

でも、分かったことは、行動すれば問題は解決し、今起きている問題はそう長く続かないと言ったことでした。次の悩みや問題は出てきますが、「そのうちどうにかなる」と思える

のです。

同居して、看病をしてみても、また実家の整理を通して、初めて両親のことが理解できるようになったことがどれほど沢山あったことでしょうか。特に父親のことは何も知らなかったことに気づかされました。爪の形が私とは違うことを発見した時は衝撃でしたし、ガラクタの中から出て来た父の仕事の断片や初めて見る子供のころの写真にも特別の感慨を覚えました。聞きたくないと思っていた母の愚痴も、その長年の苦悩がよく分かるようになりました。

今この時は、両親を理解し、そして育ててもらった恩返しをする時なのでしよう。長生きしてくれなければ出来なかつたことです。

こんな私の生活を、「大変ね」と言ってくれる友達がいます。「良かったわね、両親を見てあげられて」と言う友達もいます。そして、十年以上介護をしている同級生がいます。

みんな私に励ましをくれました。幸せなことに夫の理解と協力、地方に住む弟夫婦の気遣いや心の支えがあります。そして何よりも、天使で学んだ知識と自信があります。

これからもこの生活はしばらく続きますが、成し遂げるまで、自分の健康を祈りながら、一つ一つ心をこめてやっていけたら良いと願っています。

天使同窓会誌によせて 「骨髓提供体験」

衛生看護科三十四回生
昭和五十八年生

金田 真智子

十年ほど前に骨髓提供の経験をしました。関連映画に出てくる子供が息子に重なり、映画を見た帰りにすぐバンクに登録するという単純な行動でした。たぶんないだろうと思うことも忘れたころに該当の連絡がきて、検査が進み採取になってしまいました。その当時手術室勤務をしていて、麻酔をかけられるという経験に好奇心もありましたし、一生に一度くらい人を助けたと思えるのも悪くないだろうと踏み切ったのです。これが誇りになるどころか今になっても重苦しくはずかしいものになっているのです。

担当医師はやさしい話し方をする感じの良い方で、検体採取の扱いに失敗し再度採血に訪れた時にも病棟から走ってきて謝罪をするなど対応も良いものでした。体重から計算して骨髓液は最高千mlだが間に合うか：充分です。どなたが採取するのか：ばくです。などと廊下を歩き会話をしながら打ち解けた雰囲気になったのです。

採取前日に入院をし、患者として

は慣れない六人部屋で少し緊張もしました。やっと寝入った瞬間、走り込んできた看護師がライトを顔に当て私を呼ぶのです。驚いて飛び起きた私に「明日飲んだり食べたりできませんから」「ハ・ハイ(ええっそんなの知ってるよーやっ寝たのに)」寝たのは零時を過ぎました。当日朝詰め所内に担当医師を見つけ廊下から今日はよろしくねと心で手を振りました。ストレッチャーに乗り病院の天井がドンドン動いていき、ついたところは通勤時のプラットホームさながらの混雑、エアカーテンの風が、全裸にかけられた術衣を持ち上げ、あまりの無防備さにおかしさがこみあげます。規模もシステムも違う病院を見学させてもらっている気持ちになっていました。若い医師が二人入口でおしゃべりしている横を通り入場です。ルートをとった麻酔科医は一度目の失敗で介助の看護師にチツと舌打ちされ、頭上で落ち着きなく挿管チューブを確認しながら床に落としています。後から入ってきたベテランそうな医師が担当医師が出張になったので代わりに僕が採取しますと言いだし、ディプリバンの痛みを感じつつ意識を失いました。病室に戻り術後訪問に来た麻酔科医にお願いで自分の麻酔チャートを記念に見せてもらいました。補液のトータルが間違ってるわね、あれ骨髓液千五百ml採取って言っていたの

と違わない？ 不思議に思ったことを訪室してきた看護師に言うと同室に呼ばれ、採取した医師二人と面談になってしまいました。やり取りの中で千mlなんて決まってる、年のせいか思いのほか幹細胞が少なかった、相手に骨髄液が足りたのかを気にする人はいたが取りすぎたと言ってくる人はいないなどと言われ、低カルシウム状態も手伝ってか怒りをぶちまけてしまったのです。最後にはテレビで見る記者会見のように二人揃って起立し深々と頭を下げていました。この人たちは何を謝っているのか、そして私は何を怒っているかわからなくなっていました。

冷静に振り返ると期待していた大
学病院の対応が残念であったとい
い人でいたかったのにクレマーに
なってしまった自分に我慢が出来な
かったのでしょうか。かっこ悪い自分
でしたが移植された人の治療とで
きれば短気な性格が移りませんよ
うにと心から願いました。左右九か
所ずつの穿刺痕はすっかり消えてし
まってもたまたま思い出します。

(現在は骨髄液を採取しなくても
採血から成分を分けて移植可能に
なっています。)



近況報告「おれ、チューブのことどうしたらいいの？」

衛生看護科三十四回生
昭和五十八年卒

富永 貴子

気がつけば、天使卒業三十年以上が経ち、私は今、横浜市にある保育園に勤めております。小さな保育園ですが、経管栄養や痰の吸引、などの医療的ケアが必要なお子さんをお預かりしています。

NICUで勤務していた頃、退院していったお子さんのお母さんたちから、外出といえは受診、二十四時間気を抜けない介護、働きたいのに預け先がない…という話を聞いたり、(母親が) 気をつけていなかったからこんな子が生まれた」とか「いい子にしているよ」とか「いい管がはいると、今でもこのような事を言われる事があるそうです。

退院してわが子と一緒に暮らせる喜びはあっても、地域社会で暮らすには行き場がとも少ないのが現状です。そこで障害があっても子供らしく楽しい経験が出来て、お母さんも沢山社会の中で生きていける様にと十年前に開園されました。今では、医療的ケアは保育の一部、としてすべて保育士が実施してくれています。

しかし保育士になるための学校では、障害児といえは知的障害、という程度で医療的ケアについてはほとんど学んでいません。すべての事を、仕事をしながら一から覚えていきます。

私はそんな保育士と保育をしながら、病気の事を伝えたり、手技を覚えてもらったり、どうしたらクラスの中で過ごしやすいか一緒に考えたり、という仕事をしています。二十三年六月に介護保険法の一部が改正され、保育士も医療的ケアの実施が認められるようになりました。それでも他園では、健常児を預かるのも手いっぱい医療的ケアのお子さんなど考えられないとなかなか広まらず、多くのお子さんが入園できません。

医療者以外の者が医療的ケアを実施するという事に関しては当然賛否があり、何かあったら責任が持たないという事も良く解ります。本当に慎重に整備していかなければならない事で、本当に今やっている事は良いのだろうかと思う事もあります。しかし、ある男の子が卒園間近、こんなことを言いました。

「ねえ先生、保育園の先生は小学校と一緒に行くの？」一緒に行かないことを伝えると、「いかないの？ おれ、〇〇君のチューブの事とか、出来ないけどどうしたらいいの？ 教えてもらえるの？」『小学校の先生がやってくれるから大丈夫だよ。』

それに〇〇君は養護学校に行くから△△くんの学校にはチューブの入っている子はいないと思うよ』『なんですか？』というやりとりがありました。その子にとって、一緒に過ごすのが当たり前で、どうして別々なのが解らないようでした。

小さい時から何人もの重度身体障害のお子さんとお過ごしてきた子ども達には私達とは違う概念が生まれるようです。大人になった時、わけ隔てのない社会を頭でなく心で造っていつてくれるのではないかと思いましたが。

もう少しやってみようかな、と思う今日この頃です。

「ライフサイクル」

医療法人社団大蔵会札幌佐藤病院
衛生看護科 第三十五回生
昭和五十九年卒

三上 美鈴



私が天使女子短期大学に入学したのは、昭和五十六年四月の事です。まだまだ初々しい十八才の頃。看護師という仕事の厳しさを理解していなかったので、学校に普通に通っていれば簡単に卒業できると考えていました。入学式、

その日から三年間の辛く・苦しく・楽しい学生時代が始まりました。三年の間に生まれて初めて経験する事がたくさんあり、特に排泄ケアは衝撃的でした。看護師の美しいイメージが変わった瞬間ですね。様々な困難にぶつかりながらも卒業できたのは、いつも傍で励まし支えてくれた友達がいだからだと思います。そんな学生時代を過ごして、卒業、就職、再就職、結婚、出産、育児、再々就職と人生いろいろ経験しましたが、二十八年間ずっと看護師を続けています。学生時代に遊んでばかりいた私が、看護師を続けていくなんて誰も想像しなかったと思います。しかし、人は日々成長していくものですね。様々な患者様と出会い、病気を持つ人の気持ちについて教えられ、医師や先輩からも怒られながらも教育されて、あんなに嫌いだっただ看護計画や看護研究が好きになり、今は立派？に管理職となっています。思いつきで行動する私の下で働くスタッフは可哀想かもしれませんが、やる気があって個性あふれるスタッフが沢山いてくれるので、毎日いろいろな感動や発見があり、楽しく過ごしています。

ここに痛みが出るようになりました。痛みがあるとやる気が半減してしまふのです。やはり健康が一番。笑って、食べて、飲んで、歌って過ごせるのも健康だからですね。人々の健康を支える看護師の私は、自己管理にも気を使わなくてはならない年頃になりました。毎年、天使短大の同級生に会う機会がありますが、お互い年とともに話す内容も変化し、子供のことや仕事のことから持病のことへと変わり、いずれは年金の話になるのでしょうか。

とりとめも無く話してきましたが、私の尊敬するI先生は、母校で学んだ事が看護の原点だといいます。私もその事に共感しています。何科に勤務しても、患者さんの幸せを考える事や患者さんにとって一番良い方向に向かって看護する事を忘れずに続けていけるのは、学生時代に「看護」そのものについて繰り返し教えられた経験があるからです。いつまでも自分の母校が存在し、天使大学らしい看護観を持った看護師が育ってくれたらいいと考えます。これからも、母校の発展を願っています。



シスター小林光代さん やすらかに



厚生科十八回生
専攻科六回生

我妻 静子

八月七日夜、戸塚第二修道院院長のシスターの電話で午前シスター小林が帰天されたことを知らせていただき、驚きと悲しみに襲われました。昨年の暮れに本人から「在宅で通院しながら術後の療養生活をおくっている。体力と気力で頑張っているからお祈りお願い」との電話をいただき、同級生の仲間と祈りを捧げていました。状態の悪化により六月中旬ころ聖母病院に入院されましたが疼痛のコントロールを受けながらもおだやかに過ごされていると聞いておりましたの……。

シスター小林とは不思議なご縁があったような気がしております。看護学生の時、外科看護で講義や実習で、初めての就職では天使病院の古い木造の掃除の行き届いた外科、内科混合病棟、翌年新築され、新設された整形外科病棟で上司(病棟部長)としてお世話になりました。シスター小林は純真で、感情表現も豊かな方だったので同僚と苦楽をともにした三年間でした。退職後専攻科に進学して驚いたことは、同級生としてのシスターの姿を見かけた時でした。「えっ、また一緒に」。しばらくは上司としての意識もありましたが、厳しい学習の一年間を同級生仲間としてお互い励ましあい卒業することが出来ました。

学習の一環として保健所・市町村実習がありました。その期間事情により修道服にかわり私服を着用していましたが、白のブラウス、紺のスカート、ショートカットの髪その姿は、本人は照れ、恥ずかしがっていましたがとても清楚でまぶしかったことが今も目に浮かびます。向上心、好奇心の旺盛だったシスターには私たちの何倍も有意義な一年間だったと思います。その後はそれぞれの道を歩み忙しく、賀状程度のお付き合いでした。最後にお会いできたのは十数年前の新宿のホテルでのクラス会でした。お元気で活躍されていました。

シスター小林の療養生活を知ってから何度か手紙のやり取りができましたが、いつも病状の経過と、明るく闘病生活を頑張っていること、私への励ましの言葉、お祈りのお願いが綴られていました。今思い出を振り返りながら、いつも心に留めていただいていたこと、その優しさに感謝の気持ちでいっぱいです。シスターは最後に「すべて感謝よ」の言葉を残され、やすらかに天国に旅立たれたとのことでした。

シスター小林、本当にありがとう。そしてお疲れさまでした。

これからも私たちを見守ってくださいね。

平成24年度

天使大学同窓会総会報告

会則第16・17条に基づき、平成24年度総会を左記のとおり開催しました。

I 総 会

・日時 平成24年4月21日(土) 11時15分～13時

・会場 札幌全日空ホテル3階 鳳の間

・出席者 代議員 14名(委任状 提出者 20名)

一般会員 44名
役員・委員 23名

議長 看護科28・専攻科13回生 今崎 裕子氏

副議長 栄養科17回生 菅原千鶴子氏

■報告事項

◎平成23年度 会務・事業報告

・理事会(8回)、常任理事会(5回)、各委員会の開催

・奨学金検討委員会(7回)

・奨学生選考委員会

・講演会開催

・広報誌『ふらたなす』発行 『タキさんの店』開店(6回)、および天使祭バザーの開催

・合唱コンクール、西尾副会長が審査員として出席

・大学行事時のスタンドフラワー、祝電、飲料の寄贈

・新会員への記念品・弁当贈呈

・学生の部活動遠征費の助成(スカッシュ部)

・フィリピン・バギオへの奨学金助成

◎平成23年度 会計報告(別頁参照)

◎平成23年度会計監査報告

■審議事項

◎同窓会奨学金貸与規程の改正について

大学の授業料、さらに道内の経済事情をみても、勉学を続けるための経済的負担は大きく、天使大学での各奨学生は学生全体の半数となっている。そこで、対象枠を「卒業生で、かつ大学院生」と限定した現行制度を見直し、多くの現役学生が勉学に

専念できるよう、母校の環境作りに貢献することを目的とした制度に改正する。

・貸与の対象

同窓会会費納入者で、天使大学・大学院在学中の2年以上の学部生4名および院生2名とする。

・貸与金額

30万円とし(在学中1回限り)、授業料の一部に充てることを目的とし、大学に直接送金する貸与方法とする。

・奨学金貸与事業費を現行500万円から1500万円に増額する。

◎事務職員雇用について

◎平成24年度 事業計画

・例年の事業継続

・同窓会支部への支援

・支部長会議の開催、支部支援の予算計上、各地域在住会員名簿の提供等

・維持会費の扱い、名簿の管理方法について検討

・代議委員会を開催(選挙管理委員・役員候補者推薦委員の選出)

◎平成24年度 予算(別頁参照)

〔提案どおり承認されました〕

■同窓会細則の改正

総会審議において、同窓会支部支援の事業計画並びに予算計上が承認されたことにより、『同窓会細則六 支部細則 第五条』を左記のとおり改正します。

第五条(運営費及び活動資金)

1 支部の活動資金は、支部を構成する会員の会費及び本部予算によって運営する。

2 支部活動に充てる本部予算額は、各支部活動計画をもとに年度ごとに決定する。

3 各支部長は、次年度事業計画と予算計画を3月末までに本部に提出する。

4 会計管理については、支部長が責任をもって行う。

5 新たに支部を設置する場合は、設立趣旨書並びに予算書を提出し、決算報告を行う。

平成23年度一般会計収支決算書

自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日

【収入の部】

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	摘 要
前年度繰越金	3,534,839	3,534,839	0	
1. 会 費 収 入				
①入 会 金	9,650,000	9,650,000	0	平成23年3月卒業生 193人分
②維 持 会 費	1,000,000	1,047,000	△600,000 △47,000	特Ⅱより前年度未払金(前年度退学生返金) @1,000×1047人分
2. 福祉委員会収入	250,000	242,100	7,900	タキさんの店・バザー等 収益金
3. 寄 付 金		10,000	△10,000	
4. 総会懇親会費		119,000	△119,000	23年度総会時懇親会会費 @3,500×34人分
5. 受 取 利 息	2,000	444	1,556	
6. 雑 収 入	3,000	0	3,000	
合 計	14,439,839	15,203,383	△763,544	

平成23年度一般会計収支決算書

自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日

【支出の部】

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	摘 要
1. 事 業 支 出				
①庶務委員会	100,000	62,253	37,747	
②会計委員会	100,000	63,553	36,447	
③広報委員会	200,000	154,732	45,268	
④会員組織委員会	100,000	40,728	59,272	
⑤研 修 員 会	100,000	7,330	92,670	
⑥福 祉 委 員 会	250,000	207,179	42,821	
⑦事 業 委 員 会	100,000	80,889	19,111	
2. 一 般 管 理 支 出				
①総 会 費	700,000	644,391	55,609	会場費・懇親会謝礼他
②会報誌発行費	2,000,000	1,535,846	464,154	
③クラス幹事通信助成費	100,000		100,000	
④同窓会入会式費	500,000	388,663	111,337	記念品(印鑑付ボールペン) 祝弁当
⑤会 議 費	50,000	7,930	42,070	
⑥奨学金判定委員会費	20,000	15,920	4,080	
⑦代議委員会費	100,000		100,000	
⑧常任理事会費	100,000	43,432	56,568	8回開催(交通費等)
⑨理 事 会 費	200,000	118,020	81,980	8回開催(交通費等)
⑩役員候補推薦・選挙委員会	100,000		100,000	
⑪通 信 費	300,000	167,317	132,683	電話代・切手代
⑫交 通 費	100,000	53,000	47,000	
⑬消 耗 備 品 費	200,000	121,581	78,419	コピー料、用紙他
⑭慶 弔 費	100,000	71,174	28,826	大学行事お花代他
⑮支 払 報 酬 費	200,000	105,700	94,300	アルバイト代
⑯データベース管理費	150,000	34,650	115,350	名簿データメンテナンス他
⑰雑 費	20,000	6,539	13,461	
⑱使用料(室料)	300,000	300,000	0	同窓会室・調理室
3. 寄 付 金 支 出				
①寄 付 金(バギオ)	250,000	242,100	7,900	
4. 助 成 金 支 出				
大学クラブ助成金	300,000	102,020	197,980	全国大会出場助成・体育祭飲み物
5. 積 立 金 支 出				
事業準備積立金	5,000,000	5,000,000	0	
6. 未 払 金	150,000	250,000	△100,000	特Ⅱ北洋へ 卒業延期者納入分及び退学者返金分
7. 東日本大震災義捐金	1,274,880	1,274,880	0	
8. 予 備 費	1,274,959	179,970	1,094,989	パソコン購入・ネットセットアップ他
合 計	14,439,839	11,279,797	3,160,042	

(次年度繰越金) = 当期収入合計 - 当期支出合計

15,203,383 - 11,279,797 = 3,923,586

平成23年度特別会計収支決算書

自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日

【収入の部】

(単位：円)

科 目	特別会計Ⅰ(奨学金)	特別会計Ⅱ(前受金)	摘 要
前年度繰越金	5,219,832	40,361,672	
1. 会 費 収 入			
①前 受 金		10,200,000	平成23年度入学生 @50,000×204人分
2. 繰 入 金 収 入	360,000	250,000	〈特Ⅱ〉卒業延期者納入分 平成21年度過払分戻し
②貸付金返金			
3. 雑 収 入	828	14,627	
③受取利息			
合 計	5,580,660	50,826,299	

【支出の部】

(単位：円)

科 目	特別会計Ⅰ(奨学金)	特別会計Ⅱ(前受金)	摘 要
1. 前受け金支出			19年度入学生193人分
①入 会 金		9,650,000	
②退学者返金		150,000	①②③は一般会計へ
③一般会計未払		600,000	
2. 貸 出 金 支 出	480,000		
①奨学金貸与			
3. 雑 費	1,680		
③振込手数料			
合 計	481,680	10,400,000	

(次年度繰越金) = 収入総額 - 支出総額

【特別会計Ⅰ】 5,580,660 - 481,680 = 5,098,980

【特別会計Ⅱ】 50,826,299 - 10,400,000 = 40,426,299

一般会計財産目録

平成24年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額	
資 産 の 部		
流 動 資 産		
現 金	362,085	
預 貯 金		
北洋銀行普通預金	3,561,501	
郵貯銀行振替口座	2,357,000	
流動資産合計		6,280,586
固 定 資 産		
北洋銀行定期預金(事業積立金)	33,072,027	
固定資産合計		33,072,027
資産合計		39,352,613
負 債 の 部		
流 動 負 債		
未 払 金	0	
固 定 負 債		
負債合計		0
正 味 財 産		39,352,613

※事業準備積立金 預金利息 7,598円 含む

平成24年度一般会計予算

自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日

【収入の部】

(単位：円)

科 目	前年度予算額	24年度予算額	増 減 額	摘 要
前年度繰越金	3,534,839	3,923,586	△388,747	北洋普通預金、現金
1. 会 費 収 入				
①入 会 金	9,650,000	10,250,000	△600,000	平成24年3月卒業生 @50,000×205名
②維持会費	1,000,000	1,000,000		@1,000×1,000名
2. 福祉委員会収入	250,000	250,000	▲7,900	タキさんの店・バザー等 収益金
3. 受 取 利 息	2,000	2,000	▲1,556	預金利息
4. 雑 収 入	3,000	0	▲3,000	
合 計	14,439,839	15,425,586	△985,747	

平成24年度一般会計予算

自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日

【支出の部】

(単位：円)

科 目	前年度予算額	24年度予算額	増 減 額	摘 要
1. 委員会事業支出				
①庶務委員会	100,000	100,000	0	
②会計委員会	100,000	100,000	0	
③広報委員会	200,000	200,000	0	
④会員組織委員会	100,000	100,000	0	
⑤研修員会	100,000	100,000	0	
⑥福祉委員会	250,000	250,000	0	
⑦事業委員会	100,000	100,000	0	
⑧各支部事業助成		300,000	△300,000	
2. 一般管理支出				
①総 会 費	700,000	700,000	0	会場費・交通費・懇親会他
②会報誌発行費	2,000,000	2,000,000	0	「ふらたなす」発行・発送費
③クラス幹事通信助成費	100,000	100,000	0	
④同窓会入会式費	500,000	500,000	0	記念品(バッチ・印鑑付ボールペン)
⑤奨学金判定委員会費	20,000	20,000	0	会議費・交通費
⑥会 議 費				定期以外の開催会議も含む
・代議委員会費	100,000	100,000	0	会議費・交通費
・常任理事会費	100,000	100,000	0	会議費・交通費
・理事会費	200,000	200,000	0	会議費・交通費
・役員候補推薦・選挙委員会	100,000	100,000	0	
・支部長会議費		150,000	△150,000	
・その他会議費	50,000	50,000	0	
⑦通 信 費	300,000	300,000	0	電話代・パソコン管理費
⑧交 通 費	100,000	100,000	0	行事参加時等の交通費
⑨消 耗 備 品 費	200,000	200,000	0	事務用品・コピー用紙等
⑩慶 弔 費	100,000	100,000	0	大学行事の花代・祝電・会員弔電料
⑪支 払 報 酬 費	200,000	1,200,000	△1,000,000	事務職報酬・庶務業務パート料
⑫データベース管理費	150,000	150,000	0	
⑬雑 費	20,000	20,000	0	
⑭使 用 料	300,000	300,000	0	同窓会室10万・調理室20万
3. 寄付金支出				
バギオ寄付金	250,000	250,000	0	
震災義捐金他	1,274,880	1,000,000	▲274,880	
4. 助成金支出				
大学クラブ助成金	300,000	300,000	0	クラブ大会助成・体育祭時飲物
5. 積立金支出				
事業準備積立金	5,000,000	5,000,000	0	
6. 未 払 金	150,000	150,000	0	退学者未払金
7. 予 備 費	1,274,959	1,085,586	▲189,373	
合 計	14,439,839	15,425,586	△985,747	

平成24年度特別会計予算

自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日

【収入の部】

(単位：円)

科 目	特別会計Ⅰ(奨学金)	特別会計Ⅱ(前受金)	摘 要
前年度繰越金	5,098,980	40,426,299	
1. 会 費 収 入			平成24年度入学生
①前 受 け 金		10,000,000	@50,000×200人分
2. 繰 入 金 収 入			
②事業積立金	10,000,000		
③貸付金返金	360,000		
3. 雑 収 入			
④受 取 利 息	1,000	20,000	
合 計	15,459,980	50,446,299	

【支出の部】

(単位：円)

科 目	特別会計Ⅰ(奨学金)	特別会計Ⅱ(前受金)	摘 要
1. 前受け金支出			
①入 会 金		10,250,000	23年度卒業生205人分
2. 貸付金支出			
②奨学金貸付	1,800,000		@300,000×6人分
3. 雑 費			
③振込手数料	5,100		@850×6人分
合 計	1,805,100	10,250,000	

特別会計Ⅰ(奨学金)財産目録

平成24年 3 月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
資 産 の 部			
流 動 資 産			
預 貯 金			
北洋銀行普通預金	5,098,980		
流動資産合計		5,098,980	
資産合計			5,098,980
負 債 の 部			
流 動 負 債			
固 定 負 債	0		
負債合計		0	
正 味 財 産			5,098,980

特別会計Ⅱ(前受金)財産目録

平成24年 3 月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
資 産 の 部			
流 動 資 産			
北洋銀行普通預金	10,220,567		
流動資産合計		10,220,567	
固 定 資 産			
北洋銀行定期預金	30,205,732		
固定資産合計		30,205,732	
資産合計			40,426,299
負 債 の 部			
流 動 負 債			
未 払 金	0		
固定負債		0	
負債合計			0
前 受 金 内 訳			
①平成20年度入学生 (205人)	10,250,000		
②平成21年度入学生 (199人)	9,950,000		
③平成22年度入学生 (194人)	9,700,000		
④平成23年度入学生 (204人)	10,200,000		
前受金合計	40,100,000		
正 味 財 産			40,426,299

※普通預金・定期預金預金利息計 326,299円

備品報告書 平成24年 3 月31日現在

備 品	個 数
銀 行 印	1
会 長 印	2
選挙管理委員長印	1
電 話	1
パソコン	3
プリンター/コピー/FAX機	1
耐火金庫	1
鍵付書棚	2
鍵付机	2
冷蔵庫	1
ロッカー	2
整理タンス	1
食 器 棚	1

平成25年度同窓会総会・講演会・懇親会のお知らせ

平成25年度から5月開催になります。

- 会場—— 札幌全日空ホテル（札幌市中央区北3条西1丁目 ☎011-221-4411）
- 日時—— 平成25年5月18日（土）
- 受付—— 9:30～
- 講演会—— 10:00～11:00（3階 鳳の間）

テーマ：“食”を通じた人と地域の元気づくり
～学生たちとのチャレンジ～

講師 荒川 義人 先生

天使大学看護栄養学部栄養学科教授

今、大学の使命の一つに地域、社会との連携が謳われており、本学は様々な形で役割を果たしています。

本学の教育課程は相当密ですが、学生たちは、啓発本作成、レシピ・新製品開発、生産者・消費者・行政との交流事業などエネルギーに活動し、地域に貢献しつつ、また多くのことを学んでいます。今回は、その一部を紹介させていただきます。

- 総会—— 11:15～13:00（3階 鳳の間）
- 懇親会—— 13:15～14:45（3階 祥雲の間）
会費 3,500円（当日、会場にてお支払いいただきます。）
- 申込み—— 4月30日（火）必着（同封の葉書にてお申込みください。）
＊申込み後の取り消しは、5月9日（木）までをお願いいたします。
その後の取消しの場合は、後日、会費（3,500円）を頂戴いたします。
- 連絡先—— 天使大学同窓会室 TEL/FAX（011-712-1088）

※当日の参加申込みはご遠慮ください。

同窓会役員選挙に関する広報

平成25年3月1日

天使大学同窓会会員各位

天使大学同窓会選挙管理委員会

委員長 和田悦子

同窓会会員の皆様、平成26年度の総会では3回目の同窓会役員選挙が行われます。

昨年11月10日には新しい選挙管理委員・役員候補者推薦委員選考の為にクラス幹事の皆様の会合が開かれました。その席上にて選挙管理委員並びに候補者推薦委員の皆様が推薦され、同窓会役員選挙に向けて動き出しました。

そこで、下記要綱により天使大学同窓会会則第7条1項に基づき、第3回役員選挙を行いますのでお知らせ致します。

尚、立候補届出用紙につきましては、同窓会ホームページからダウンロードするか、同窓会事務局までご請求ください。

選挙告示

- 1 役員選挙は 会長1名、理事9名（副会長2名を含む） 幹事2名とする。
- 2 役員に立候補する会員は、規定の立候補届出の用紙（別紙）に必要事項を記載・押印し、選挙管理委員長宛に郵送にて提出する。（郵送先 下記参照）
- 3 立候補の届出期間は平成25年4月1日（月）から平成25年9月30日（月）までとする。（9月30日当日消印有効）
- 4 選挙投票は、平成26年度の総会前に行う
- 5 選挙は代議員が投票する
- 6 選挙開票は、選挙立会人（3人）の下に行い、総会の前に議長に報告する。

立候補届出用紙送付先

郵便番号065-0013 札幌市東区北13条東3丁目1-30

天使大学同窓会選挙管理委員会 委員長 宛て

大学からのお知らせ

求人情報ご提供の依頼について

天使大学は今年、第十回卒業生を社会に送りますが、卒業予定者の大半が専門職への従事を希望しております。就職希望者の内定率（一月末現在）は、看護学科一〇〇％、栄養学科六七％となっております。

当就職委員会では、在校生および卒業生の就職支援を行っておりますので、同窓会の皆様から求人情報をお寄せいただけますと大変助かります。

お心当たりがございましたら、ぜひ就職相談室にご連絡ください。

ご協力よろしくお願いたします。

電話：〇一一七四一一〇五一
FAX：〇一一七四一一〇七七

天使大学就職委員会
委員長 瀧 断子

平成二十五年度の大学祭の日程について

平成二十五年六月十四日・十五日に開催します。

同窓生の皆様どうぞ足をお運びください。

尚、同窓会のバザーは十五日（土曜日）です。

広報委員会から「ふらたなす」に関するお願い

何時も同窓会広報誌「ふらたなす」にご声援いただき感謝しております。委員一同何かしてより読みやすい充実した広報誌をと思いい力を合わせ編集に励んでおります。

さて、編集上次のことに付きまして同窓会会員の皆様にご協力頂きますと、編集がスピードアップしますのでお願いいたします。

- 一 お悔やみに関することはその年の十二月末日で編集しますので、クラス代表の方は同窓会室へメール又は電話かはがきでお知らせください。FAXでも結構です。
- 二 同窓会誌に原稿をお寄せください。同期の皆様との絆は一年に一回発行の同窓会誌が繋がります。その時には、どうかご自分の学科と卒業期をお書きください。
- 三 同窓生の皆様のご活躍の様子や、栄誉を受けられたニュース等お知らせください。広報委員会として取材させて頂き広く誉れを同窓生の皆様にお知らせしたいと思っています。
- 四 「ふらたなす」が郵便局から「転送」で届いた場合は、事務局へ新住所をお知らせください。

会員のおくやみ

心よりご冥福をお祈りします

- 栄養科九回生 高橋 邦子 様 (旧姓清水)
平成二十二年五月六日ご逝去
- 栄養科九回生 木村 美代 様 (旧姓山下)
平成二十二年十一月十六日ご逝去
- 厚生科三回生 山下 萬代子 様
平成二十三年九月十八日ご逝去
- 厚生科四回生 村上 蓉子 様 (旧姓伊藤)
平成二十三年十一月十四日ご逝去
- 厚生科七回生 笠松 裕子 様 (旧姓水野)
平成二十四年二月二十五日ご逝去

葛西 智子 様 (旧姓西尾)
平成二十四年三月二十九日ご逝去

山崎 弘子 様 (旧姓板倉)
平成二十四年四月十一日ご逝去

瀧澤 せつ 様
平成二十四年六月三十日ご逝去

横道 則子 様 (旧姓渡部)
平成二十四年八月二十一日ご逝去

小林 光代 様 (旧姓シスター小林)
平成二十四年八月七日ご逝去

藤原 紀子 様 (旧姓藤原)
平成二十四年十月二日ご逝去

下宮 京子 様 (旧姓田中)
平成二十四年十一月二十二日ご逝去

井上 フジ子 様 (旧姓辻)
平成二十四年十二月一日ご逝去

吉田 道子 様 (旧姓阿部)
平成二十五年一月十二日ご逝去

坂井 隆子 様
(ご逝去年不明) 五月一日ご逝去

栄養科十回生 吉田 道子 様 (旧姓阿部)
平成二十五年一月十二日ご逝去

坂井 隆子 様
(ご逝去年不明) 五月一日ご逝去

栄養科十回生 吉田 道子 様 (旧姓阿部)
平成二十五年一月十二日ご逝去

坂井 隆子 様
(ご逝去年不明) 五月一日ご逝去

弔電費の負担

同窓会を代表して弔電を打つ場合は、二〇〇〇円を同窓会で負担致します。弔電の差出人名は必ず「天使大学同窓会」と明記してください。

領収書を同窓会会計宛に郵送くださると、お支払い致します。

『同窓会事務局への「ご連絡について」』

同窓会室には、週四日、パート職員が勤務しておりますが、不在の場合は、左記連絡方法にて、ご氏名・連絡先をお知らせください。後日、こちらからご連絡させていただきます。

なお、住所の変更は、同窓会ホームページからご連絡いただけますので、そちらの方もご利用ください。

電話/FAX

〇一一七二二一一〇八八

メールアドレス tenshi_dousoukai@ybb.ne.jp

同窓会ホームページ (http://www.tenshi-dousoukai.org/)

編集後記

二十六年ぶりに母校を訪れ、周囲の変化には驚きましたが、懐かしさの残る校舎にほっと致しました。

余り即戦力になれませんでした。が、貴重な経験をさせて頂きました。

お忙しい中、ご協力してくださった皆様、ありがとうございます。

衛生看護科三十三回生

神田 民恵